

府中市健康地域づくり審議会
第15回次世代創造分科会 報告書

- 1 日 時：平成28年11月18日（金） 13：30～15：00
- 2 場 所：府中市役所2階 第一応接室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長） 板 橋 千代美（分科会副会長）
吉 原 純（分科会委員） 坂 永 弥 生（分科会委員）

4 概 要

(1) 開 会

(2) 分科会長あいさつ

(3) 報告

①報告1 「子ども・子育て支援事業計画」の「量の見込み」と「実績」について

②報告2 平成28年度少子化対策事業の進捗について

(4) 議事

①議事1 「（仮称）保育環境整備計画」について

②議事2 中須保育所の許認可について

③議事3 平成29年度重点施策について

【主な質疑・意見】

委員：照英さんは子育てについて何かされているのか。

事務局：NHKの子育て番組にも過去に出られており、育児に係わるということを実践されており、面白い話が聞けるのではないかと思います。

委員：実践をされているのはわかるが、特殊ではないかと思います。

事務局：知名度がないとなかなか来ていただけないというのも事実としてあり、中身の充実した方をお呼びするのか、よくみなさんに知られた方をお呼びするのかというところであると、みなさんに来ていただきたいということを先に考えるとどうしてもタレントさんの起用ということになる。

事務局：今回、広島県の男女共同参画研修会も兼ねており、“男性の育児参加”ということで、県のほうからのリクエストもあり、男性を選ばせていただいている経緯もある。昨年も集客については課題であったので、ホワイエの方で新たに木育のブースを今回は学びフェスタや病院まつりよりも大掛かりなもので考えている。それから、初めての試みとして、食育ブースを保育所給食から保育所を出しているおやつをお配りする形で考えており、集客ということと、女性こども課が主催なので女性こども課がやっていることを講演会だけではなく、PRしていく場ととらえて、新しい取り組みを始めたところである。

委員：トークショーには小さい子は同席させない方がいいのか。

事務局：そのために木育ブースで遊んでいただくというのを考えている。託児という名目にはしていないが、そこで講演会が始まってからもロビーの方で遊んでいただくということで、保育士も若干つく予定にしている。見守るということになるが、講演会自体が今回1時間程度になるので、その間一緒に遊んでもらうということを考えている。

委員：啓発はどうやっているのか。

事務局：町内会回覧、ネット関係にあげることと、市内の各小学校や保育所の子どもたちに案内する予定。現在調整中だが、備後圏域の協議会へ後援依頼し、市内だけでなく、近隣の市町へもお願いしようと考えている。

委員：ウッドスタートの積み木は、来年2月からの10か月健診で配られるのか。

事務局：そのとおり。

委員：4か月健診のときのブックスタートでは府中市から本を配布される。今回、上下でも該当が4人いたが、本を読んでプレゼントした。10か月の子も併せて健診に来るが、10か月の子にはプレゼントがなかったので、もらえたら嬉しいと思う。木のおもちゃは、さわった感じがあたたかい。

委員：定員50というのは、現在の中須保育所の子どもたちが溢れることない数であり、それに0・1歳も入れるということで、今よりもいい状況になるということですね。

委員：子どもが増えてきたら、また定員というのは変えられるのか。

事務局：定員枠が3歳以上の子どもについては、今ほとんど全部入れている状況なので、定員の総枠というのは、あまり増やさなくても大丈夫。低年齢のところはやはりニーズが増えてきているので、そちらはただ定員というのが保育所1つでの定員なので、個々の年齢に分けた定員ではないので総枠になる。

委員：女性と企業のマッチング事業だが、事業費150万をどのように使ったのか

事務局：だいたいの分類で説明させていただくと、約50万円が現地コーディネーターへ業務をお願いしている委託料、職員の旅費として約30万円、それから現地の会場については、東京にある広島県が使っても良いという枠で使わせていただいたが、そのほかの控え室や駐車場代として約10万円かかっており、実際には100万は超えている状況となっている。

委員：このイベントの対象者は、子育てと仕事を両立させたい方なのか、それとも東京や都会にいる方に府中に来て働いてもらうために独身の方が対象なのか。

事務局：今回は本当に移住を考えている方を対象にするために、事前申込制を試みたのだが、ネットだけで応募をかけたのがいけなかったように思うが、10人に足りないくらいの数しかなかったというのが、結果で反省すべきところ。対象としては、ファミリー層で移住を考えている方、独身でも地方移住には興味はあるが、実際には地方に行くと仕事がないのではないかと不安に思われている方

もいらっしやる。そういった新規就業者の方やファミリー層で移住を考えている方々をターゲットにしたイベントである。

委員：子育てと仕事をしている女性だったら、きっちりした仕事ではなく、とりあえず生活がまわる、子育てしながらまわる条件の、近くの職場を探されている。そして一旦子育てが終わったら、もう一回本職に戻りたいと言われる方も多い。とりあえず今は遅く行って、早く帰れる、保育所に迎えに行けるところを探しているということがあるので、もし本当に女性の働き場所を見つけてあげようと思うのであれば、両極端の方向から助けてあげたらいいのではないかな。

事務局：職場は東京などの大きい街のほうがたくさん条件に合うところもあると思うが、やはり少し子育てには適していないなと思われて、少し地方のゆったりした生活を望まれるような方に来ていただくのをねらったようなところ。それからもうひとつは、受け皿としての府中市の機運として、今言われたような絶対迎えに行かないといけないから時間が限られるんだけど、それでも働ける体制を是非考えていってほしいなというのをイクボスセミナーというもので下地も作っていきたいと思っている。

委員：中学生などに結婚をということを届けることも大切かもしれないが、今子育てをしている親世代をしっかりと育て、コミュニケーション能力を上げて仲のいい夫婦を見せるとかそのあたりのほうが経済的にも豊かな府中市が生まれるのではないかと感じている。

委員：委員さんが（分科会を）よく休まれているが、私はよくわかる。子育てと仕事の最盛期の方が委員になられている。この人たちは若いときに府中市を盛り上げようと頑張っておられた方たちで、だんだんここが中年になってきている。次に若い人に独身の人に NPO の仲間に入ってくださいというのが課題と言われていた。一生懸命頑張って楽しくしてきたが、年もと、忙しくなってきたと思うようにできない。やはり次の若い子たちを取り入れておかないと続かない。

委員：支える次の若年層をどうやっていくか、中年層ももちろん大事だが、次を支える若年世代をどうやっていくかというのが課題。

委員：無いものばかり言っているようなところもあるので、あるもの、財産を大事にして内には見えないもの、伸ばせるようなものがあるとか、そういう風な見方、外から見て初めて府中は…という今あるものを伸ばしていけるようなものを。なかなか難しいと思うが考えていかななくてはいけない。

委員：本当にいろいろ活躍されている方は地元にもたくさんいらっしやる。それぞれすごく元気がいいが、後が続かない。

委員：今の楽しいのが見えたら、後の人も入るかもしれない。

委員：無いものねだりではなく、あるもので輝かせるようなことが大切。

委員：上下は中学生、高校生がボランティアでいろんなことをされている。すごく上

手にされていると思った。

委員：上下は平成29年度からコミュニティスクールが本格実施だが、その前段階でもっと学校の敷居を低くしようという取組をされている。先日も、小さなお祭りだが、かかしまつりというのがあったが、その時、上下北小学校の子が盛り上げ隊になって、来られた方にゲームをしたり、自分たちでできることを考えて行った。白壁まつりやひな祭り等いろんなイベントには中学生も小学生もいっぱい出てやってくれる。また、高校生がよく挨拶してくれるようになったり、野球部が練習で今まで何も言わなかったのに、「こんにちは、元気ですか」と言ってくれるだけで、明日も元気で生きられるような気がすると言われ、お金のいらぬすごくいい話だと思う。

委員：データが欲しい。今までの15回の分科会でいろいろ議論してきたが、どんなにそこが活かされているのか。全部の回にリンクしているので。最初の頃話し合ったことが、現状としてどこにどう活かされているのか、どんな結果になっているのか知りたい。そういったことが分かれば、議論のフォーカスが定まる場所もあるかもしれない。また、次回までに分科会に関するようなデータがあれば教えていただけたらいいのではないかなと思う。

委員：子育て訪問サポート事業は、利用はまだないのか。利用がないというのはいいことだと思うが、拾い上げの問題もあるのか。これは健診のときであったか、どこで気づくものだったか。

事務局：これは、赤ちゃんが生まれた後に、保健師が全戸訪問という全ての新生児のご家庭を訪問して、そのときに聞き取りをし、そこでの聞き取りの中で特に支援が必要だなと、今後虐待につながる可能性があるなど、少し子育てしづらい雰囲気があるという家庭をそこで拾い上げ、支援計画というものを作っていく。そこに保健師や場合によっては、保育士や栄養士などが家庭訪問をして指導していく。子育ての仕方の助言や離乳食の作り方指導などのアプローチをしていく事業。

委員：訪問は何回もあるか。

事務局：健康医療課が生まれた赤ちゃんを訪問するので、そこで1回アプローチし、その後支援が必要な場合には、2週間に1回であったり、月に1回の訪問計画を関係者が個々の事情に合わせて立てる。計画に基づいてご家庭を訪問していくということで特に回数を制限しているものではなく、必要に応じて訪問を繰り返していくという事業である。

委員：支援が必要だなという方は受け入れてくださるか。

事務局：実績としては4月から始めて0件。今現在（支援が）必要な家庭というのが2件ある。こちらの事業のために訪問をさせていただくため、今同意を得るよう話を進めている最中。当然受け入れ側のほうが、指導はいりませんということ

であれば、当然ご家庭までは入れないが、地区担当の保健師がかかわりを持っているので、そちらのほうからこの事業につながるよう、その2件についてはアプローチを継続している最中である。

(5) 事務連絡

(6) 閉会 分科会副会長あいさつ